

研究指定校名 : 鳥取市立東中学校

## 1. 学校の概要

学校名	鳥取市立東中学校
学級数	19学級（うち特別支援学級：6学級）のぞみ分校2学級含む
児童生徒数	全生徒数：401人（平成31年1月15日現在）分校含む
URL	<a href="http://www.torikyo.ed.jp/torie-j/">http://www.torikyo.ed.jp/torie-j/</a>

## 2. 調査研究のテーマ

### (1) 調査研究のテーマ

仲間を大切にし、互いに尊重し合い、よりよく生きようとする生徒の育成  
～不断の自治力啓発によるいじめのない学びの場づくり～

### (2) 調査研究のテーマを設定した背景

本校は、平成29年度創立70周年を迎えた本市でも伝統のある中学校の一つである。ここ数年、不登校や深刻ないじめ事案等を含む生徒指導上の問題が多発しており、生徒指導面で厳しい対応を迫られている。加えて、学力の低下も著しい。こうした厳しい状況の背景には、準要保護家庭生徒（22%）、外国籍生徒（3%）、児童養護施設から通学する生徒（4%）が在籍しているなど、複雑な家庭環境で育った生徒が多く存在することも要因としてあげられる。各種アンケートからも、「自己肯定感」「自己効力感」「共感的人間関係」等の項目で肯定的な回答率が低いことなどが結果として生徒の実態にあらわれている。現状として、問題行動にかかわった生徒の対応に追われる教師主導の生徒指導から脱却できていない実態があった。

そこで、平成29年度は、専門機関の助言や支援を借りながらリスクマネジメントと個別の支援に主眼をおいた生徒指導に切り替えた。また、形骸化していた生徒会を主体とした仲間づくり活動を、生徒が自ら考え他者へ働きかけることのできるものに改善した。

平成30年度は、校務分掌組織と学校評価の流れを改編し、PDCAに沿った学校組織マネジメント体制を構築していった。教職員がチームとなって協働し、生徒一人ひとりが自分も他者も大切にしながら、深く考えたり、自主的に行動したりするしかけをつくり持続的に育成したい。具体的には、「研究推進委員会」を核に、行事だけにとどまらず、授業の中で生徒同士が学び「共有化」を行い、自己の考えを持たせ、他者と関わるスキルを身につけ、他者から学び、尊重できる生徒を育成することで望ましい人間関係を築くとともに、いじめ防止につながると考えていた。

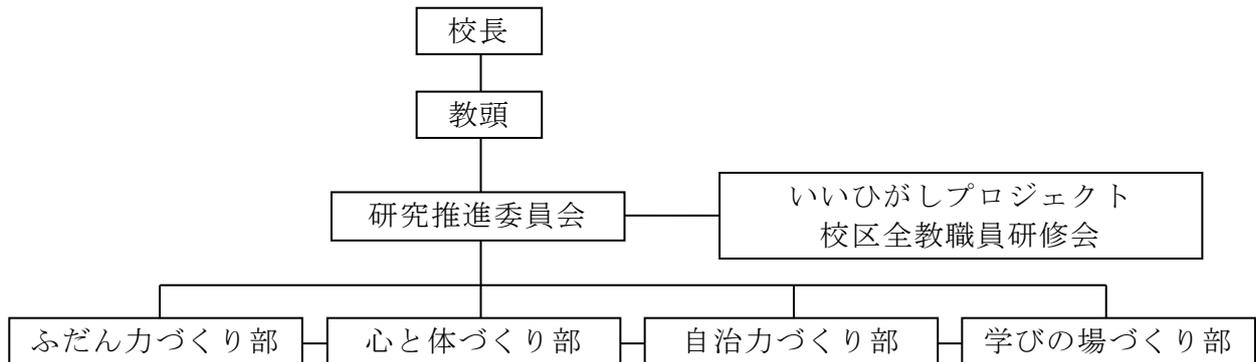
これらの課題と昨年度の取組の成果を踏まえ、今年度の研究テーマを『仲間を大切にし、互いに尊重し合い、よりよく生きようとする生徒の育成～不断の自治力啓発によるいじめのない学びの場づくり～』と設定した。

### (3) 取り組んだ人権課題（該当するものに○印。複数選択可）

①女性	
②子供	○
③高齢者	
④障害者	
⑤同和問題	

⑥アイヌの人々	
⑦外国人	
⑧HIV感染者・ハンセン病患者等	
⑨刑を終えて出所した人	
⑩犯罪被害者等	
⑪インターネットによる人権侵害	
⑫北朝鮮当局による拉致問題等	
⑬いじめ	○
⑭性的指向、性自認	
⑮その他（ ）	

### 3. 調査研究の推進体制



〈関係協力期間〉 ○鳥取県教育委員会 ○鳥取市教育委員会

### 4. 調査研究の内容等

#### (1) 調査研究の内容等

(現状の分析と課題)

- 深刻ないじめ事案を含む問題行動の多発（年間約40件）
- 年間30日以上欠席者が5%を超える
- 学力の低下が著しい
- 各種アンケート結果によると「自己肯定感」「自己効力感」「共感的人間関係」等の項目で肯定的な回答が低い

(調査研究の内容)

- ふだん力づくり部：ボイスシャワーのあふれる学校づくりをすすめ「自己肯定感」を高めると共に人権感覚を高め、自他を大切に作る生徒の育成に取り組む。
- 自治力づくり部：生徒の自治力を柱にした「自己効力感」や「共感的人間関係」が図れる仲間づくりをめざす。
- 学びの場づくり部：生徒の学びが見てとれる学習環境づくりや授業での図書館の効果的な活用をすすめる。
- 心と体づくり部：学校不適應の生徒や発達障がい等の障がい特性を持った生徒の支援対策に取り組む。
- 久我直人教授（鳴門教育大学）を招聘した研修を行い、東中校区全教職員研修会で研究を深め共有化を図る。

(実施方法・検証・評価)

《実施方法》

○人権が尊重される環境づくりくふだん力づくり部>

- ・全職員が授業において「勇気づけのボイスシャワー」を意図して、生徒に肯定的な声かけをおこなった。また、「話を聞く態度を育てる」ことを意識し、話し手の方を見て聞くことを徹底した。その結果、授業態度が落ち着き、笑顔で話を聞く生徒が増えた。

○共感的人間関係を構築する集団づくり<自治力づくり部>

- ・運動会や学芸発表会等の行事で縦割り活動（異年齢交流体験）を実施した。3年生がリーダーになり、グループごとに集会を企画し、笑顔で活動をおこなった。
- ・生徒会がウォームハートプロジェクトを企画し、互いの考えや思いを受け止め、相互理解する体験をおこなった。

<ウォームハートプロジェクト①>

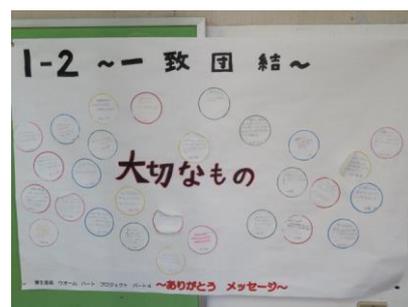
「学級の仲間いいところみつけ」（9月）

<ウォームハートプロジェクト②>

「学級の仲間へありがとうメッセージ」（11月）

<ウォームハートプロジェクト③>

「先輩・後輩へありがとうメッセージ」（2月）



(学級の仲間へありがとうメッセージ)

- ・地域の方々（東心会・東中サポーターズ等）とのふれあいを通して人権感覚を養うボランティア活動をおこなった。

<東心会主催 防災体験型キャンプ 7月26日～27日>



<東中サポーターズ主催 綿種まき・綿打ち体験 5月～1月>



<地域行事にボランティア参加>



(地区文化祭に吹奏楽演奏)



(地区の餅つき大会に参加)

○生徒の学びが見てとれる学習環境づくりや授業での図書館の効果的な活用

<学びの場づくり部>

学校図書館を情報収集基地（ベース）とし、学校司書が様々な学習資料を近隣図書館から収集し、生徒の調べ学習を支援した。



○ピア・サポートによる自己有用感・人間関係調整能力の育成<心と体づくり部>

希望生徒を対象に、スクールカウンセラーが中心となり、毎月1回放課後に実施した。大きな集団の中では、自己表現ができなかったり、人間関係でトラブルを起こしてしまったりする生徒が、ここでは安心して笑顔で活動する姿が随所で見られた。

《検証・評価》

○生徒意識調査（年2回）

6月と12月の2回、ASSESS（アセス）を実施し、分析をおこなった。

教師サポート（教師との人間関係）の分野では、適応状態の割合が10%以上の増加が見られた。これは全職員による「勇気づけのボイスシャワー」の成果であると考えられる。友人サポート（同級生との人間関係）、非侵害的関係の分野では、大幅な変化は見られなかった。様々な取組をおこなったものの6ヶ月では、調査結果に影響を与えるものにはならなかった。

○いじめアンケート（随時）

5月、7月、9月、12月に実施した。（2月にも実施予定）

<いじめアンケート推移>

単位は人数

質問に対する回答		H29.5月	5月	12月
学校生活が楽しくない。	1年		3	4
	2年	3	4	6
	3年	5	5	12
	合計		12	22
人に意地悪や嫌がらせをすることがある。 ( )内は「たまにある。」	1年		1(10)	2(17)
	2年	1(14)	5(9)	2(10)
	3年	2(24)	1(6)	2(11)
	合計		7(25)	6(38)
人からいじめや嫌がらせを受けている。 ( )内は「たまにある。」	1年		1(7)	2(10)
	2年	1(12)	0(6)	1(5)
	3年	3(18)	1(6)	0(8)
	合計		2(19)	3(23)
周りにイヤな思いをしている人がいると思う。	1年		6	18
	2年	12	1	2
	3年	5	8	2
	合計		15	22

<評価>

3年生は学習内容が難しくなり、受験勉強のストレスとも相まって、「学校が楽しくない。」とした生徒が増えた。2・3年生は、昨年度、人間関係でのトラブルが多発したが、本年度は「人に嫌がらせをする生徒」が大幅に減少した。一方、1年生では加害、被害、「周りにイヤな思いをしている人がいると思う。」と回答した生徒が急増している。学校に慣れてきて、人間関係の問題が表面化し、いじめや嫌がらせを受けている生徒が増えてきているが、周囲の生徒も気づきながらもどう行動していいのかわからず悩んでいる姿が浮かぶ。自分自身がいじめをしない生徒になることは大事であるが、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ。」と強く断言でき、いじめを無くすために行動を起こせる生徒を育成することが急務である。

深刻ないじめ事案を含む問題行動の件数は平成29年度年間97件であったが、本年度12月末までで35件まで減少した。また、年間30日以上欠席をした生徒の割合は平成29年度6%であったが、本年度は12月までで3.8%に減少した。

学校は徐々に落ち着きを取り戻し、授業中の生徒の笑顔が増えてきた。過去の悪循環から脱却し、好循環に導き確かな成果を得るには、この研究を単発で終わらせず、来年度も継続させる必要がある。また、校区内の小学校とも連携し、この取組を普及していきたいと考えている。

(2) 実施結果

時期	内容	備考
(前期) 4月16日 4月～ 9月	・第1回「人権教育研究推進事業」連絡協議会 ・研究推進委員会（研究の柱の共通理解）、各分掌部による方針確認 → 職員会 ・いじめアンケート（随時実施）	参加者15人
5月10日 5月25日 6月27日	・東中校区全教職員研修会（授業公開、小中連携） ・ピア・サポート実施 ・第1回生徒意識調査（ASSESS）の実施	参加者120人

6月29日	・校区共通アンケート実施	参加者10人
7月4日	・ピア・サポート実施	
7月27日	・運動会に向けた縦割り活動（異年齢交流体験）	参加者10人
7月27日 ～28日	・地域学校協働本部主催の教育活動 「防災体験型キャンプ」	
8月20日	・東中校区全教職員夏季研修会	参加者100人
9月6日	・ウォームハートプロジェクト（厚生委員） （学級の仲間いいとこみつけ）	参加者120人
9月12日	・ピア・サポート実施	参加者10人
9月28日 （後期）	・前期Check&Action研修会	参加者40人
10月19日	・ピア・サポート実施	参加者10人
10月25日	・PTA人権教育講演会 講師：鳥取県ケータイ・インターネット教育推進員 中井 浩 氏	参加者50人
10月30日	・学芸発表会に向けた縦割り活動（異年齢交流体験）	
11月1日	・ウォームハートプロジェクト（厚生委員） （学級の仲間へありがとうメッセージ）	
11月26日 ～27日	・研究授業・研修会 講師：鳴門教育大学 教職大学院 久我 直人教授 鳥取県教育委員会人権教育課 西垣 卓宏指導主事 松井 貴宏指導主事 東部教育局 社会教育担当 平野 靖博指導主事 鳥取市教育委員会 学校教育課 福田 美奈主幹	参加者98人
11月30日	・ピア・サポート実施	参加者10人
12月12日	・第2回生徒意識調査（ASSESS）の実施 ・校区共通アンケート	
1月23日	・東中校区全教職員研修会（授業公開、小中連携）	参加者120人
1月25日	・ピア・サポート実施	参加者10人
2月1日	・人権教育講演会（1年） 講師：法務省人権擁護委員 今度 珠美 氏	参加者121人
2月14日	・人権教育研究推進事業報告会 ・第2回「人権教育研究推進事業」連絡協議会	参加者2人
2月18日	・人権教育講演会（2、3年） 講師：LINE株式会社 樋口 孝一 氏	参加者260人
2月21日	・地域学校協働本部主催講演会 講師：鳥取県いじめ・不登校総合対策センター センター長 三橋 正文 氏	参加者約150人
2月22日	・ウォームハートプロジェクト（厚生委員） （先輩・後輩へありがとうメッセージ）	
3月13日	・後期Check&Action研修会	参加者約40人

